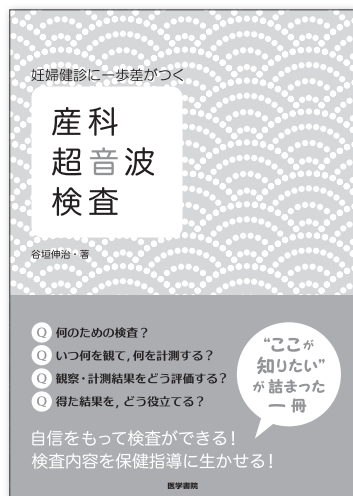




谷垣伸治 著
定価 2200 円＋税
B 6 判／医学書院／2014 年

評者 小笹幸子 聖バルナバ助産師学院教務部長

自信をもって産科超音波検査ができ その結果を保健相談にいかせる

助産師は対象妊婦の健康診査から、ガイドラインにしたがって、対象妊婦を独自で管理してよいのか、産婦人科医が管理すべきかの識別ができなくてはならない。包括的な胎児の健康状態の評価法として、バイオフィジカル・プロファイル・スコアなどがあり、胎児心拍数モニタリングと産科超音波の所見の判読が求められている。助産師国家試験出題基準にも、母体、胎児の健康診査に必要な検査についての基礎知識として、超音波検査機器の使用法・超音波胎児計測・超音波血流計測がある。

その一方、法的な整備はなく、看護では画像そのものを判読し判断する経験をしてきていない。初学者にとって、超音波画像の白黒やカラードプラーの映像は、妊婦さんと同様、説明されるまで

「なにがなんやらさっぱりわからない」のである。

本書は、産科超音波検査でどこを見るべきで、それはどのように描出されるのか、イメージしやすいようイラストが添えられ、正常と異常がわかりやすく対比されている。超音波検査の基本や用語の解説は選りすぐっており、明快である。また超音波検査に関連して、モニタリング、陣痛周期、胎児下降度など覚えなくてはならない数値がやたらと多いが、ポイントとなる胎児の発育過程や計測値などがコンパクトに示されている。

本学の妊娠期の実習では、妊婦健診の待ち時間から付き添ってお話をうかがい、診察の介助後に保健相談(指導)させていただく。妊娠時期(出産予定日がどう決定され、現在の妊娠週数は妥当か)、妊娠経過(母体の健康状態や子宮頸管長に問題はないか)、胎児の発育と健康状態、体位、胎児付属物に異常はないかを評価する。さらに、妊婦の生活やマイナートラブルや心理状態をアセスメントし、保健相談(指導)を行なう。「何も問題がない」妊婦さんでも、妊娠の時期に応じた保健相談(指導)の項目がある。これら一連の流れを体験し、その内容を教員や指導者に伝える。当日に同意を得られる妊婦さんに行なうため、ぶつつけ本番。また、お待たせする時間をなるべく短くすべく、助産診断せねばならない。その不安や焦りのなかで、本書が大いに活用されると思う。

知識や数値が頭に入っていない時、テキストが身近にあればと思う人も多いだろう。実習時の学生の荷物は重い、ユニフォームのポケットにすっきり入り、すぐに取り出して確認できるのも本書の利点である。実習で経験を積んでいくうえで、参照しつつ学べる本書は学生にとって大変に有用である。助産師学生だけでなく、新人助産師、助産師外来を担当し始める方にもおすすめの1冊である。

①